

# モノクロームメゾチント体験教室

モノクロームメゾチント技法を使って、製版から刷りまでを行う、初心者向けの教室です。

1回の講習でポストカード大の作品を完成させます。

日 時: 2013年10月27日(日) 10:00~13:00 ※9:40開場

講 師: 江本創(アーティスト)

会 場: ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション 1階

定 員: 18名(抽選)

参加費: 1800円+入館料

持ち物: 下絵(サイズ12×7.5cm、モノクロ)、汚れても良い服装、エプロン。

初心者  
向け



## 銅版画自由教室

当館の銅版画体験教室に参加された事のある方を対象といたします。

以前作った作品を発展させたい方、新たな作品を作りたい方へ、制作の場を提供いたします。

\*講師の先生はいらっしゃいません。美術館スタッフが簡単な説明とアドバイスをいたします。

\*技法はモノクロームメゾチントに限ります。

日 時: 2013年10月27日(日) 14:00~17:00

会 場: ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション 1階

定 員: 15名(抽選)

参加費: 500円+入館料 ※メゾチントプレート(12×7.5cm)は、1枚1000円で販売します。

持ち物: 下絵、汚れても良い服装、エプロン。以前の作品を手直しする方は、その版をお持ちください。

経験者  
向け

Musée  
Hamaguchi  
Yozo :  
Yamasa  
Collection

郵便往復はがき

103-0014

往信

東京都中央区日本橋  
蛎殻町1-35-7

ミュゼ浜口陽三・  
ヤマサコレクション

郵便往復はがき

□□□-□□□□

返信

ご自分の住所

氏名

- ①ご希望のコース名と開催日
- ②氏名(ふりがな)
- ③郵便番号・住所
- ④電話番号

### お申込み方法

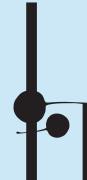
◎必要事項をご記入の上、往復はがきでお申ください。10/7(月)必着。

抽選結果は返信葉書で通知します。(〆切の翌日発送予定)

◎初心者向け、経験者向け両方に参加されたい場合は、『両コース参加希望』とご記入ください。

◎数名で一緒に参加ご希望の場合も1通の往復はがきでお申込みいただけます。代表者のご連絡先、参加希望者の人数とお名前をご記入ください。

ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション  
〒103-0014 東京都中央区日本橋蛎殻町1-35-7  
Tel. 03-3665-0251 Fax. 03-3665-0257



## Q1. メゾチントってどんな技法？

### A1. 銅版画の技法のひとつ。

ビロードのような画面が特徴です。

銅の板に施した凹部分にインクをつめ、凸部分の余分なインクはふき取って強い圧力で紙に刷るのが銅版画。

メゾチント技法では、最初に版全面にぎざぎざの傷をつけ、ビロードのような黒い画面をつくります。これを「目立て」といいます。（当館の体験教室ではあらかじめ目立て加工のしてある銅板を使用します。）

明るく（白く）したい所は「スクレーパー」という道具でぎざぎざを削り、インクが溜まる量を減らします。

ぎざぎざが浅く、密度が低くなるほど明るく（白く）なり、微妙な削り加減で美しいグラデーションの表現が可能です。

えんぴつで黒くぬりつぶした画面に消しゴムで絵を描くようなイメージです。

下絵サイズ：12×7.5cm（縦横どちらでも可）

## Q2. どんな下絵を用意したらいいの？



A2. 浜口陽三の作品を参考に見てみましょう。

左上：「猫」1937年

ドライポイント技法による作品。（今回の教室ではこの技法は使いません）

銅の板に先のとがった針のような道具で引っ搔き、その傷にインクを詰めてから余分なインクをふき取り、紙に刷りあげます。引っかいた所が黒くなるので、「線」で描くのに向いた技法です。

左下：「巻貝」1959年

メゾチント技法による作品。（今回の教室で使う技法です）

暗い背景のから白い巻貝が浮かびあがります。

よくみると、線ではなく、黒の「濃淡」で描かれています。

貝のまるみを帯びた形、影、背景のグラデーションは、メゾチントの得意とする表現です。どちらかというと「線」で描く表現には向きません。

下絵を描くときは白…グレー…黒の、色の濃淡を意識して、えんぴつなどで塗り分けてみてください。

